

令和 2 年 5 月 27 日現在

機関番号：33910

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K13213

研究課題名（和文）中国作家協会による報奨制度改革 - - 重点作品支援制度を中心に

研究課題名（英文）The institutional reformation of the reward by China Writers Association: on the support project for key literary works

研究代表者

和田 知久（WADA, Tomohisa）

中部大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：40553102

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：中国における文学制度は「組織化」と「計画性」を特徴とし、人民共和建国以降、一貫して維持されてきた。1990年代中期以降、その束縛は弛緩してきたと見なされているが、政治の側からの文学作品や作家に対する影響力回復の試みは21世紀の現在においてもなお止むことは無い。一般的に文学賞が公刊後の作品に対する報奨であるのに対し、民間団体ながら中国共産党の指導下にある中国作家協会が2004年以降実施している「重点作品支援制度」は、政治の側が「優れている」と認定した作品に公刊前に報奨を与えるものであり、従来とは異なる方式での創作への関与である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、国内外において、中華人民共和国を中心とする従来の中国近現代文学研究における大前提を無効にするようなサイノフォン（華語語系）文学や華語圏文学といった研究パラダイムが提唱される中で、政治制度や権力と文学との関係を21世紀の現在時において問い直すとする本研究課題とその成果は、同時代的なトレンドに沿った極めて重要なテーマである。ただ、個々の論文や研究報告を統合するビジョンを示し得ているか否かについては、現時点では不十分であり、学界に期待されるようなインパクトを与えているとは言えず、研究の継続が不可欠である。

研究成果の概要（英文）：The institution of Chinese contemporary literature is characterized by its organization and planning. Since the foundation of P.R.C, they have maintained their characteristics consistently. Just after mid-1990's, it seems that their restriction had loosened. But the political attempt at recovering the influence with writers and their literary works does not have disappeared yet. Generally, literary prize is a kind of a reward for published works. The support project for key literary works by China Writers Association, the organization within the orbit of the China Communist Party, since 2004, is the reward for pre-published works. It is the different method of the political intervention in literature.

研究分野：中国近現代文学

キーワード：文学制度 報奨制度 政治と文学

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) 「文学制度」については大きく二つの方面からのアプローチが可能である。ひとつは、文学をめぐる制度自身（中国現代文学をめぐる諸制度の形成、発展など）についての研究である。もうひとつは文学をめぐる制度に含まれる雑誌、社団、出版などの方面からの研究である。これらについての研究は、国内外の研究者による研究がすでに存在しているが、主に現代文学や「十七年文学」に関するものが殆どであり、作家や作品に対する報奨制度についての研究はまだ多くはない。とりわけ1980年代以降の新時期における中国作家協会による個々の作家や作品への関与のあり方についての調査と考察は、先行研究が皆無に等しい。

(2) 中華人民共和国の文学制度には、「組織化」と「計画性」という2つの大きな特徴がある。その特徴を備えた文学制度は、人民共和國建国以降、一貫して維持されていたものの、1990年代中期以降の市場経済進展に伴い、調整と転換を迫られることになった。また、新時期文学はかつての文学規範からの逸脱を目指すものであり、中国共産党や政府により文学作品や作家を指導、管理するといった中国作家協会の役割はもはや失われたとする認識が普遍的である。そのためか新時期、なかんずく新世紀を迎えて以降の中国作家協会による作品や作家への関与についての研究は、中国同時代文学研究における盲点となっており、全く不足している。

2. 研究の目的

一般的に文学賞が公刊後の作品に対する報奨であるのに対して、中国作家協会が2004年から実施している「重点作品支援制度」は、あらかじめ提示されたテーマにもとづいて創作した作者に、執筆のための諸経費補助をおこなったり、創作途中に発生した問題の解決に助力したりするなど、公刊前の作品に対する報奨であり、従来とは異なる方式での創作へ関与である。当該制度についての研究を通じて、中国作家協会による個々の作家や作品への関与のあり方について明らかにするとともに、文芸の生産と流通の形態について新たな知見を提示することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) **中国作家協会「重点作品支援制度」自体の研究**：当該制度が創設されるに至った経緯、各年度の運営体制や実施状況について、文字資料や聞き取り調査を用いて明らかにする。

(2) **支援対象作品の読解と分析**：「重点作品支援篇目」として採用された作品のリスト化と、個別の作品の読解をおこなう。

(3) **政治による文芸への介入についての総合的な考察**：中国作家協会の刊行物や、介入を拒む作家の側の思考、革命政党と文芸との関係など、政治権力による作家と作品への関与について総合的な考察をおこなう。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果：平成28年から令和元年の本課題研究期間を通じて、著書（共著）1冊、論文4篇、研究発表2回、雑誌記事1篇を成果として発表することができた。

①「同時代中国における新たな「政治と文学の関係」の模索」（『国際』という夢をつむぐ』中部大学国際関係学部、2014年）は、本研究の前段階に位置するものである。中国作家協会による茅盾文学賞の改革と重点作品扶助制度の創設に着目し、文学賞への不信と批判が、審査制度の透明化と審査制度の革新のみならず、創作段階から支援することで政策に沿った作品を生産しようとする新たな制度の創設に強く関連していることを指摘した。

②「第11章 文学史」（『現代中国の起源を探る 史料ハンドブック』東方書店、2016年）は、現代中国の歴史的起源である1950年代に関する史料の手引き書であるが、執筆を担当した「文学史」において示した「1950年代中国における文学の場は、管理のための組織化と規範への一体化を強いられた」という認識は、新時期以降の文学制度を考察する本課題研究の基本的姿勢であり、相互補完的な存在となっている。

③「閻連科『発現小説』を読む」（『貿易風』Vol.12、中部大学国際関係学部、2017年）は、中国国内では「禁書作家」と称される一方、フランツ・カフカ賞を中国人作家として初めて受賞するなど、毀誉褒貶相半ばする作家である閻連科の小説論「発現小説」を取り上げ、創作の姿勢としてのリアリズムを如何に捉えているのかという問題について、その文学的主張を検討した。強権的、中央集権的な国家とイデオロギーに規制されるリアリズムを排除し、作家の精神の内部に生成する内因果による「神実主義」の創作が、未来の中国の同時代文学に新たな創作の空間を生み出すと主張していることを指摘した。

④「同時代中国の文学制度について：中国作家協会による創作支援制度を中心に」（日本中国当

代文学研究会、2018年)では、文聯・作協についての先行研究を踏まえて、近年における中国作家協会や文学賞の権威失墜と影響力回復の試みについて、作家協会による創作支援制度の創設を取り上げ、文芸分野の管理統制の方式が事後の褒賞ではなく、創作段階に関与使用とする傾向が現れてきたことを指摘した。

⑤「『中国文芸年鑑』通覧：各巻の体裁、編纂体制、収録記事とその分類からみた1980年代中国における文芸システム」(『貿易風』Vol.13、中部大学国際関係学部、2018年)は、文芸のカテゴリー化、文芸に関する情報や知の体系化が権威によって如何になされるかを考察したものである。1981年に刊行され、中断を経て1988年版で途絶えた『中国文芸年鑑』全5巻について、各巻の体裁、編纂体制、収録記事とその分類などに着目しつつ検討した結果、第4次文代会以降に勝ち得た「創作の自由」への政治の側からの干渉を極力排除すべく用心した跡がうかがえることを指摘した。

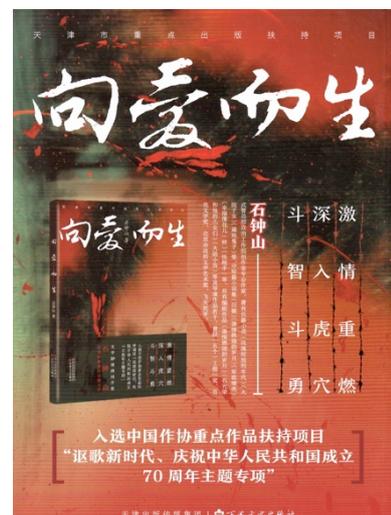
⑥「1950年代の台湾文学：金溟若「石教授」を読む」(『GLOBAL』第13号、中部大学国際人間学研究所、2018年)中国共産党との内戦に敗れた原因を軍事面のみならず、文化思想政策面においても認められた国民党政府は台湾遷移後、より強力な文芸政策を採用することになった。雑誌『文芸創作』は、民衆の士気を鼓舞し、反共抗ソの精神を発揚するために1951年5月に刊行された。ただ、その創刊号に掲載された金溟若「石教授」は、その創刊の趣旨に必ずしも沿ったものではなかった。作品の梗概を紹介しつつ、作家の経歴を踏まえて、そのような「ちょっと変わった」作品が誕生した経緯を解き明かしている。

⑦「1950年代、台湾の文学を考える」(第7回国際関係学部研究会、中部大学、2019年)1950年代の台湾ではそれまでの日本語文学が完全に否定され、中国大陸の文学が強制的に移植されることになった。全ての作家が国家の文芸政策の下に組み込まれ、発禁や検閲、白色テロによる弾圧や、反共文学生産奨励の報奨制度の創設など、「政治と文学」を考察する上で中国共産党による文芸の「組織化」「計画性」と相似形を描いていることを指摘した。

⑧「金溟若の反共小説：『自由中国』掲載の「歧路」と「飾」をめぐって」(『貿易風』Vol.14、中部大学国際関係学部、2019年)「反共」意識の濃厚な1950年代台湾の文学状況の中、「反共」「反専制」「反強権」を掲げる雑誌『自由中国』に掲載された金溟若の2篇の小説について、登場人物の設定や物語展開を読み解くことで、それら作品が必ずしも「反共」一辺倒ではない、大陸の共産党政権と台湾の国民党政権とに共通する専制や強権に対する反感や嫌悪が描かれた思索性に富むものであったことを指摘した。

⑨「工作条例の変遷からみた中国作家協会重点作品扶持制度：新世紀の中国、政治による文学への関与の方式をさぐる」(『貿易風』Vol.15、中部大学国際関係学部、2020年掲載予定)では、重点作品扶持制度の「工作条例」の規定内容とその変遷について条目を追いながら考察した。創設当初から現在まで公平・公正な制度運営を標榜しつつも、創作過程と宣伝普及に一貫して介入しようとしていること、習近平政権発足以降には文芸への影響力を強化しようとする姿勢が顕著になったことを指摘し、中国作家協会が本プロジェクトを通して如何に同時代の文学に関与しようとしているかを報奨制度実施運営の面から明らかにした。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト：近年、国内外において、中華人民共和国を中心とする従来の中国近現代文学研究における大前提を無効にするようなサイノフォン(華語語系)文学や華語圏文学といった研究パラダイムが提唱される中で、政治制度や権力と文学との関係を21世紀の現在時において問い直そうとする本研究課題とその成果は、同時代的なトレンドに沿った極めて重要なテーマである。ただ、個々の論文や研究報告を統合するビジョンを示し得ているか否かについては、現時点では不十分であり、学界に期待されるようなインパクトを与えているとは言えず、研究の継続が不可欠である。最近では文学作品の広告宣伝において、重点作品支援制度に採用されたことを全面的に押し出すものも見られるようになった。一方で制度自体やその構造について検証する本課題研究に類するものは未だほとんど見られず、研究の地平はまだ開拓の余地がある。



文芸雑誌『小説月報』(2020年第5期)の広告。重点作品支援制度採用作品であることを全面的に押し出している

(3) **今後の展望**：関連する文献・資料の入手に時間がかかったり、入手や閲覧できる資料に限界があったりするなど、本課題研究の遂行には障碍が多かった。例えば、中国作家協会全国委員会会議の議事進行や、主要な報告文書については追跡、確認できるものの、重点作品支援辦公室やさらに下位の委員会で検討された事項については、現行の制度であることや対外的な資料公開に制限があることが、本課題研究遂行を大いに遅滞させることとなった。

当初、同時代中国における重点作品支援制度のみを対象にしていたものが、上記の理由もあり1950年代台湾を参照軸として設定したことで研究成果が散漫化してしまったことは否めない。

しかしながら本研究課題は、「政治と文学」という「古いテーマ」が21世紀を迎えた現時点においてもなお考察すべき価値があることを示すものとして意義を有している。今後は散漫化して点在した研究成果を結び、線となり面をなすよう研究を継続したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 和田知久	4. 巻 13
2. 論文標題 『中国文芸年鑑』通覧 - 各巻の体裁、編纂体制、収録記事とその分類からみた1980年代中国における文芸システム -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 貿易風	6. 最初と最後の頁 68,80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 和田知久	4. 巻 12
2. 論文標題 間連科『発現小説』を読む	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『貿易風』	6. 最初と最後の頁 74,83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 和田知久	4. 巻 14
2. 論文標題 金溟若の反共小説: 『自由中国』掲載の「岐路」と「篩」をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 貿易風	6. 最初と最後の頁 53, 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 和田知久	4. 巻 15
2. 論文標題 工作条例の変遷からみた中国作家協会重点作品扶持制度: 新世紀の中国、政治による文学への関与の方式をさぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 貿易風	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 和田知久
2. 発表標題 1950年代、台湾の文学を考える
3. 学会等名 第7回国際関係学部研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和田知久
2. 発表標題 同時代中国の文学制度について：中国作家協会による創作支援制度を中心に
3. 学会等名 日本中国当代文学研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中村元哉、大澤肇、久保享、田中仁、杜崎群傑、吉見崇、山口信治、王雪萍、河野正、和田知久、小浜正子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 237(131-147)
3. 書名 現代中国の起源を探る 史料ハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----